

義歯の基本から考える ノンメタルクラスプデンチャー

講師

日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座 教授

隅田 由香 先生 (86回卒)

所属学会

公益社団法人 日本補綴歯科学会 (専門医、指導医、倫理審査委員会委員長)
一般社団法人 日本顎顔面補綴学会 (理事、認定医、医療委員会委員長)
一般社団法人 日本口蓋裂学会 (理事、認定師、海外研修奨励制度委員会委員長)

略歴

1997年 3月 日本歯科大学卒業
2001年 3月 東京医科歯科大学医学総合研究科修了 (歯学博士)
2003年 4月 東京医科歯科大学大学院助教
2005年 4月 東京医科歯科大学大学院講師
2021年 4月 東京医科歯科大学准教授
2023年 6月 日本歯科大学附属病院 総合診療科4 教授 (現在併任)
2023年 7月 東京医科歯科大学特命教授
2024年10月 東京科学大学特命教授 (現在に至る)
2024年 4月 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座教授 (現在に至る)

増加する高齢者や有病者、通院が困難な在宅者に必要とされる歯科治療の多くは、「義歯の製作や調整」であることが明らかになっている。可撤式有床義歯は、多様な背景をもつ患者にも適用制限が少なく使用できるため、その有用性は高く、医科からの期待も大きい。今後も高齢者の人口数および全人口に対する高齢者比率は増加すると予想され、多様化する要求や難易度の高い症例も増えることから、国民からはより高い水準の治療が求められることが予想される。このような時代背景において、先人たちが積み上げてきた床義歯学の知識と経験は、これまで以上に臨床の場で活かされるであろう。

どのような歯科治療や研究であっても、真の目的は患者の「健康・幸福長寿」に寄与することである。本講演ではまず、床義歯学の基本概念や礎となる理論を整理し、可撤式義歯の基本原則である支持・保持の重要性を再確認する。そのうえで、ノンメタルクラスプデンチャーについて取り上げる。ノンメタルクラスプデンチャーは、金属アレルギー患者に対する選択肢としてだけでなく、整容性を向上させるオプションとしても利点を持つ。しかし、その利点を十分に引き出すためには、床義歯学の基本概念に沿った設計と臨床操作が欠かせない。つまり、義歯の基本を理解することが、ノンメタルクラスプデンチャーを安全かつ効果的に臨床で活用する鍵となるのである。

講演では、基本概念に則ったノンメタルクラスプ義歯の具体的な症例を示しながら、臨床での応用法や注意点を整理する。先生方の明日からの臨床にお役立ていただけたら幸甚である。